

2018年6月28日

文責：BEAJ 専務理事 村上憲一

ミャンマーDream Vision Company オープニング式典他について

5月から8月のヤンゴンには雨期。6月25日も朝からバケツをひっくり返したような土砂降りの雨で驚天動地。

この日まさに雨降って地固めるべく、12時から14時30分にかけて、ヤンゴン・メリアホテルで日緬両国の政府関係者、放送関係者ら約200人が出席して、ドリーム・ビジョン・カンパニー（以下DVC）のオープニング式典が開催された。

冒頭、ミャンマーのピョー・ミン・テイン、ヤンゴン地域首相が挨拶。日本政府はじめ出資社、NHKグループなどへの感謝と、ミャンマーの放送文化の発展と両国の関係強化への更なる期待を口にした。



続いて日本側からの代表として挨拶に立ったのは、丸山市郎駐ミャンマー日本大使。本来ならば内閣府の和泉洋人内閣総理大臣補佐官が挨拶すべきところ、急に体調を崩して欠席となったため挨拶文を代読。数度にわたってミャンマー大使館に勤務した経験ある丸山大使は、極めて流暢なミャンマー語で、DVCの立ち上げが両国の文化の発展や人々の更なる交流の活発化に貢献するものと確信すると語った。



挨拶を行う丸山大使と
ピョー・ミン・テインヤンゴン地域首相

その後、出資者であるクールジャパン機構の飯島一暢会長（BEAJ顧問）、JICT（海外通信・放送・郵便事業支援機構）の高島肇久会長、そして日本国際放送の冷水仁彦社長がそれぞれ挨拶し、DVCの放送コンテンツを通じて両国の更なる関係充実と人々の交流発展に繋がることなどを強調した。

さらにゲストとして、両国で圧倒的な人気を誇る森崎ウィンさんがメインボーカルを務める音楽ユニット、PrizmaX（プリズマックス）が登場。パフォーマンスを披露し、式典に華を添えた。彼らはBEAJが採択に協力した総務省「放送コンテンツ海外展開総合強化事業」の中の事業「ミャンマーでの本格バラエティー番組」（申請者：日本国際放送）のパイロット版の収録のため、式典の前日にミャンマー入りしていた。

式典の締めはMNTVのマミー社長が挨拶。「両国は長年にわたって強固な友好関係を築いてきた。DVCの創設に当たっても、日本の官民が一体で我々の要望に応じてくれ心から感

謝している。DVC の立ち上げは、両国の更なる関係強化や文化情報、人々の交流の活性化に貢献する。何よりもミャンマー国民の喜びは計り知れないと確信している」と締め括り、オープニング式典は終了した。

この間、丸山大使や NHK から DVC に派遣されている山本浩スーパーアドバイザーは MNTV や MRTV などの現地メディアからインタビュー取材を受け、その様子はその日のうちに放送された。



式典には多くの現地メディアが集まった。

【他の主な式典出席者】

総務省国際戦略局・高木誠司次長、大森一顕課長、山本和弘主査

総務省流通業政局コンテンツ推進課・神谷征彦課長補佐

NHK 黄木紀之理事、松居径関連事業局長、磯部慎一副部長、本岡祥司副部長

ドリーム・ビジョン・カンパニーは、クールジャパン機構、JICT（海外通信・放送・郵便事業支援機構）、JIB（日本国際放送）などが出資して、ミャンマー民間放送の MNTV などの運営会社と合弁で設立された番組コンテンツ制作会社。放送コンテンツの制作はもとより、番組編成や放送局の事業運営についても幅広く推進する。

2018 年 7 月から、2530 万人の人たちに放送サービスを届けるべくスタートする。

「キッズゾーン」や「インフォテインメントゾーン」、「エンターテインメントゾーン」などのカテゴリーを設定し、生活時間帯に合わせて編成しつつ放送する予定。そして、全編成の 30 パーセントは日本が制作する、日本文化や情報などを発信するコンテンツを放送する計画。

また、現在はライブでのニュース放送は実施されていないが、NHK グループの技術協力の下、10 月からニュースのライブ化を始める予定。そして 2020 年には DVC の新しいスタジオを完成する計画である。

また、平成 30 年度の総務省「放送コンテンツ海外展開総合強化事業」の一環として JIB（日本国際放送）が企画・制作する「WIN 'S・SHOW-TIME」（日本・ミャンマー両国で人気の森崎ウィンさんが司会進行役を務めるバラエティー番組）も 10 月には放送開始できるように準備を進めている。